**森聡研究会**

**（2023年度入ゼミ募集要項）**

* **研究活動の概要**
* **テーマ　「『三つの世界』と国際秩序の行方」**

　米中対立が深まり、ロシアがウクライナに侵攻したことを受けて、国際社会が、中国・ロシア、西側諸国、その他大多数の国々（最近では「グローバルサウス」とも呼ばれる）という「三つの世界」に分かれつつある、といった言説が流布するようになりました。ヒト・モノ・カネが国境を越えて行き交い、いわゆるグローバル化によって諸国家の相互依存関係が深まり、世界規模の交流と協力関係が発展するといった楽観的な見方は減退し、中国とロシアその他の権威主義諸国と、民主主義諸国からなる西側諸国が、予見しうる将来にわたって競争・対立を続けていくのではないか、そしてこの両陣営が、中露にも西側諸国にも決定的に傾斜しないグローバルサウスの国々の支持を獲得するためにしのぎを削り合うのではないか、という悲観的な見方が蔓延するようになりました。

そもそもこのような見方は、現代国際政治の実態を正確に捉えているのでしょうか。なぜ大国ないし主要国同士は競争し対立する関係に陥ってしまったのでしょうか。アジアにおいても戦争は起こり得るのでしょうか。軍事、産業・経済、テクノロジー、地政学的影響力、国際機関でのルール（価値）といった分野で、どのような競争が繰り広げられているのでしょうか。日米欧、中国とロシアといった主要国はどのような対外戦略（外交・防衛・開発援助など）を策定して、こうした新たな戦略環境に向き合っていこうとするのでしょうか。グローバルサウスの極めて多様な国々は、主要国間の対立・競争からどのような影響を受け、いかに対応しているのでしょうか。競争が基調となる「三つの世界」の国際関係を、再び協力を基調とするものへと変えることはできるのでしょうか。もしできるのだとすれば、それはどのような条件を整える必要があり、そのためにどのような外交・防衛・経済協力を展開する必要があるのでしょうか。

当研究会では、上記のような問題意識の下に、これから学生諸君が生きていく世界が直面する現代国際政治の課題を念頭に置きながら、問うべき「問い」を考究し、国際政治学の古典や基本書、最新の学術論文や政策論考などを読んで議論を交わし、自分たちなりの答えを導くことを目標とします。社会に出るにあたって、現代国際政治の基礎知識と専門知識を身につけ、自分なりの世界観を作り上げたい、ゼミの仲間たちと学問を通じた交流を楽しみながら知的研鑽を積みたい、という学生諸君の応募を待っています。

* **進め方**

毎週のゼミでは、全体テーマに関する最新の論文・論考を1本ないし研究書の1章を取り上げ（英語文献あり）、その内容について議論を重ねます。春学期は、基礎知識を身につけることに主眼を置いた文献を取り上げ、秋学期は、より専門的な知識と今日的な政策上の課題を学ぶための文献を取り上げます。

学期中のゼミでは、＜第1週＞にレジュメとパワーポイントに基づいたプレゼンテーションを行い、次週までの課題について検討し、＜第2週＞に前週に定めた課題について議論し総括するというサイクルを繰り返して、力を身につけていきます。自分たちで何を問うべきか検討して翌週までの課題（問い）を立て、1週間かけて考えてきて、翌週のゼミで議論してもらうという方式です。

　並行して、チーム別に担当テーマについて調査を実施してもらい（①中国班、②ロシア班、③アメリカ班、④ヨーロッパ班、⑤日本班、⑥グローバルサウス班）、調査結果をケーススタディとしてまとめてもらい、9月の夏合宿で発表してもらいます。（春学期後半で講読する文献は、ケーススタディに関連するものとします。）

秋学期には、共通課題の短いペーパーを執筆する作業を通じて、文献調査、思考や論文の書き方などの基本的な作法を身に付けてもらいます。

4年生になった際には、自分で自由に選ぶ現代国際政治に関するテーマ（制限なし）について、年度末までに研究論文あるいは政策提言ペーパーを執筆しますので、あらゆるテーマに自由に取り組むことが出来ます。

年間行事としては、夏合宿、他大学との合同ゼミ、有志学生による海外自主調査旅行などを予定しています。他大学との合同ゼミでは、外交シミュレーションを実施して、日頃から鍛錬した力を実践・発揮する場も用意します。（2022年度は台湾有事をテーマとしたシミュレーションを合同ゼミで実施）。

* **授業曜日と時限**
* 毎週火曜日4・5時限（予定）
* サブゼミ：　無し
* **募集予定人数：　10名以上（事前に上限は設けません。迎え入れたい応募者全員を採用する予定です。）**
* 兼ゼミ：　原則不可（ただし、他学部副専攻やメディアコム設置のゼミ等は、実態が法学部の研究会とは異なる場合があるため、こうした事情を踏まえ、教員への事前の個別相談を経て、応募を受け付ける場合があります。）

上記に該当し応募を希望される場合には、まず教員宛のメールでご相談ください。その際には、所属先のゼミの①授業形態の詳細と②内容の概要を併せてお知らせください。

* 他学部生の受け入れ：　可能
* 留学から帰ってくる学部生（2023年度秋学期編入希望者）の受け入れ：　可能（通常のゼミ選考プロセスを受けてください）／春学期のシラバスも送ります
* **入ゼミ課題（次ページ参照）**
* **面接試験の概要**
* 面接は対面形式で実施する予定ですが、オンラインの実施もあり得ます。（詳細は追って告知します。）
* 応募人数にもよりますが、一人10分程度を予定しています。
* **問い合わせ先（Bot対策で●表記していますので、●を＠に置き換えてください）**
* ゼミ生　keio.mori.seminar●gmail.com
* 教員　moris●keio.jp

**2023年度　森聡研究会・入ゼミ課題**

　当研究会は、2023年度に第2期生を募集します。入ゼミを希望する方は、下記要領に沿って応募ファイル（本ファイル末尾に雛型あり）を作成し提出してください。

**１．課題（提出物）**

1. **面接補足アンケート（次頁に雛型あり）**

本ファイル次頁以降に添付してある所定フォーマットに回答・記入して、面接補足アンケートを作成してください。（選考時の面接時間が限られますので、各人に共通でお尋ねしたい質問事項をアンケートにまとめてあります。）

1. **小論文（4,000字程度・本ファイル末尾に入力）**

**下記４本のオンライン論考のうち、2本以上を読み、その内容を踏まえて自分で「問い」を立て、それに自ら答えてください。**論文の内容の要約などは不要です。参考文献等（字数にカウントしません）は末尾に記載してください。どの論文を読んだかを本文で示してください。

* + もしオンラインで論考全文を読めない場合には、大学のデータベースからアクセスを試みるか、下記の提出先メールアドレスまで連絡をください。

1. Stacie Pettyjohn, Becca Wasser and Chris Dougherty, “Dangerous Straits: Wargaming a Future Conflict over Taiwan,” Center for a New American Security, June 2022, at <https://s3.amazonaws.com/files.cnas.org/CNAS+Report-Dangerous+Straits-Defense-Jun+2022-FINAL-print.pdf>
2. “Sino-Russian Splits: Divergences in Autocratic Coercion,” *The Washington Quarterly*, 45:3 (2022), at <https://cpb-us-e1.wpmucdn.com/blogs.gwu.edu/dist/1/2181/files/2022/10/BrandtCooper_TWQ_45-3.pdf>
3. Richard Haass, “The Dangerous Decade: A Foreign Policy for a World in Crisis,” *Foreign Affairs*, September/October 2022, at [https://www.foreignaffairs.com/united-states/dangerous-decade-foreign-policy-world-crisis-richard-haass?\_gl=1\*1oe0c7z\*\_ga\*MTU3MDI3MDY0NC4xNjUyNTExMTky\*\_ga\_24W5E70YKH\*MTY2OTUyNzM4MC43LjEuMTY2OTUyNzM5NC4wLjAuMA](https://www.foreignaffairs.com/united-states/dangerous-decade-foreign-policy-world-crisis-richard-haass?_gl=1*1oe0c7z*_ga*MTU3MDI3MDY0NC4xNjUyNTExMTky*_ga_24W5E70YKH*MTY2OTUyNzM4MC43LjEuMTY2OTUyNzM5NC4wLjAuMA).
4. Jina Kim, “Ukraine’s Implications for Indo-Pacific Alignment,” The Washington Quarterly, 45:3 (2022), at <https://cpb-us-e1.wpmucdn.com/blogs.gwu.edu/dist/1/2181/files/2022/10/Kim_TWQ_45-3.pdf>

**２．提出要領**

* 締切 **2023年1月27日（金）正午（必着）**
* 提出先 moris●keio.jp　　（●を＠に置き換えてください）
* 形式 上記課題A）とB）は、次頁以降に雛型のフォーマットを用意していますので、それに記入してください。本ファイルの説明箇所を削除すれば、応募ファイルが完成します（したがって、**課題A）とB）はまとめて1本のWORDファイルで提出**）。

ファイル名　例）　森聡＿ゼミ応募ファイル2023

* 受領確認のメールは、1月31日（火）午前中までに送ります。

**３．その他参考情報**

* SNS　ツイッター　<https://twitter.com/morisemi_keio>

インスタグラム　<https://www.instagram.com/keio.mori/>

* 今回第2期生を募集しますが、担当教員の元所属先大学のゼミのOBOGが12期生までいます。
* 不明な点などがあれば、上記提出先のメールアドレスまで問い合わせてください。

・・・・・・・**ここから上を削除して、これ以下を応募ファイルにしてください**・・・・・

**面接補足アンケート**

写真貼付

※スマホなどで撮影した顔写真データを張り付けてください。選考終了後にデータを廃棄します。

|  |
| --- |
| **提出期限　1月27日（金）正午** |
| **提出先**[**moris@keio.jp**](mailto:moris@keio.jp) |

**※面接時間を短縮するために全ての質問に回答願います。**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **氏名（ふりがな）** | **所属学部・学科** | **学籍番号** |
| **現住所／出身県・市／出身高校** | | **ホームページの管理技能**  **（あり・なしで回答）** |
| **ゼミに入った場合に連絡用に使うメールアドレス（パソコンで使えるもの）**  **携帯電話番号（緊急連絡用）** | | |
| 1. **志望動機（800字程度）**   **※当ゼミに入りたい理由、ゼミで何を学びたいか、どう貢献できるかなど自由に記述。** | | |
| 1. **自分の個性と言えそうなことをなんでも書いて下さい。（イチオシの本・映画・曲・ドラマ・食べ物などについて説明するのでも構いません。）（字数自由）** | | |
| 1. **１・２年生時に受講した国際政治学に関する授業があれば、科目名と担当教員を記入してください。** | | |
| 1. **ご自身の長所と短所はどこにあると思うか説明して下さい。（字数自由）**   **●長所**  **●短所** | | |
| 1. **もし海外留学を考えていれば、どこへ、いつ頃行ってみたいか教えて下さい。** | | |
| 1. **現時点で、大学卒業後にこのようなことをしたい（例えば、就きたい職業の分野や業界など）というビジョンはありますか。もしあれば、それはどのようなことか教えて下さい。（字数自由）** | | |
| 1. **【任意】もし差し支えなければ、英語能力検定試験（TOEIC、TOEFLその他）のスコアを教えてください。** | | |

**課題B）以下に小論文を記入してください。（4,000字程度）**